



中川 庄一 議員

環境整備が 本市復興のカギ

問 北新田運動場はスポーツ少年団等において幅広く利用されているがトイレ機能が充実していない。男女が同じ入口というのは他にない。機能充実の取り組みについて伺う。

答 南相馬市スポーツ推進計画に基づき、新たに男女を別棟に分けるなどの整備を予定しており、整備に必要な実施設計を終え、間もなく工事を発注し、年度内に利用できるように進めている。

問 本市において、多くの作業員宿舎が点在しており、大阪の事件もあり、公園トイレ周辺の防犯対策について今後の取り組みを伺う。

答 老朽化に伴い大分暗くなってきたところが多い状況で公園トイレ等の長寿命計画をしていきながら、計画的に改善策を図り、老朽化、防犯対策をはかっていく。



明かりが暗い「夜の森公園」のトイレ

問 各種団体等が公用バスを使用した研修の日程を調整する場合は平日、金土、日月の開催というように配慮いただくとうれしい。

答 各種団体等が公用バスを使用した研修の日程を調整する場合は平日、金土、日月の開催というように配慮いただくとうれしい。

これらについては柔軟に対応していきたい。

問 中学校の部活動で部員が足らずに、大会に出場できない問題について、伺う。

答 主催である中学校体育連盟へ強くそれらの取り扱いをできるように要望していく考え。

質問を終えて

未来を担う子供たちのために、全力で復旧・復興を成し遂げること。

その他の質問

① 東京電力の営業損害賠償は

② 移転促進区域の跡地利用は

③ 小中学校で再編を視野に入れての検討は



小川 尚一 議員

将来市民のための 行財政改革を

問 合併から10年を迎えるが、復興総合計画を実効性あるものとするため平成22年に策定した「行政改革大綱」を策定する考えは。

答 大綱よりも復興を優先するが、大きな柱である「行財政改革」「財政計画」「定員適正化計画」については、復興総合計画の中で指標を定め実施していく。まずは、20km圏内の再生を最優先課題としながら、全体としての行財政改革を進める考えは維持していく。

問 復興総合計画では計画的な財政運営に努め、中長期財政計画策定と進行管理、財政状況を公表するところがあるが。

答 財政運営は10年間の長期財政計画を行っている。定員適正化計画見直しにも取り組む。

問 職員の意識改革にどう取り組むのか。

答 人事評価南相馬市制度の平成28年4月1日導入に向け取り組み、市民サービスの向上と市民生活の満足度向上に繋がるよう職員の意識・行動改革に努める。

問 職員が市民の視点で考え、自発的に提案し、それを評価する職員提案制度の考えは。

答 職員提案制度は、組織の活性化に繋がることから積極的に高い評価に結びつける。

問 脳卒中センターにおけるリハビリは、重要と捉えるが取組みは。

答 センター建設にあたり作業療法室、運動療法室、言語聴覚室、水治療室と小児エリアを整備し、スタッフ35人体制でリハビリ365日体制を目指す。

質問を終えて

市民の生活満足度を高め、最大市民の最大幸福を実現するのが市役所の仕事です。

その他の質問

① 「おもてなし」による観光交流人口拡大

② 今年度の野馬追いの反省と課題

③ 南相馬警察との連携と交通事故防止対策



南相馬市
行財政改革大綱



竹野 光雄 議員

解除後の防犯・見守りの強化策は

問 解除後に、帰還する方々については、高齢者世帯や一人暮らしの方が多くいる事から、地域住民が安心して暮らせるように、防犯体制を帰還に向けて強化すべきだが、取り組みについて伺う。

答 見守り隊による24時間体制の防犯防火に努めております。解除後は、さらに隊員を増員し、警察や消防との連携をはじめ、防犯カメラ等の設置を図り充実に努めていく。

問 戻って暮らす方々へ防犯とともに、健康相談や悩み相談の部分も重要視していかねばならないと考えますが、今後の取り組みについて伺う。

答 小高地区での保健師の配置を検討し、加えて生活支援相談員等の方々と連携を図り、

帰還された方々の健康相談や悩み相談の受け付け体制の整備に努めていく。



人通りの少ない小高市街地

浪江・小高原子力発電所建設取りやめ後の土地利用は

問 復興策に結びつける振興策を進めるべきであり、浜地区には、政府のイノベーション・コースト構想等を踏まえて浪江町、東北電力等々連携を図りな

その他の質問

①放射線に対する健康不安への取組は

②福島再生加速化交付金の活用は

③避難指示解除時期の見通しは

質問を終えて
住民の意見を聞き、本年12月には、20km圏内の解除時期の判断となる運びです。

答 当該土地の利活用について、地域振興や雇用創出策を視野に入れて、福島国際研究産業都市構想の実現に向けて、東北電力、浪江町、さらに、福島県と土地利用について協議して行きます。



水井 清光 議員

交通事故防止対策の強化は

問 震災以降、復旧・復興事業に伴う各種車両が、時間帯路線により激増している状況が踏まえ、事故防止運動の強化を図るべきと考えます。見解を伺う。

答 県道原町川俣線の交通量については、復興事業等の関係から震災に比べ2倍を超えている。交通渋滞の緩和を図るため、警察署、事業者、市の連携により交通事故防止に努める。

問 右折レーンの設置についてであります。具体的に申し上げますと、相馬浪江線の石神中学のところの交差点、石神第二小学校の交差点、両方ともファミリーマートが交差点に接していることから大変複雑な車の動きとなります。早急に右折レーンを設置すること



石神二小交差点付近の状況

が根本的解決と思うが見解を伺う。

答 交通渋滞の解決策として右折レーンの設置については、当該道路管理者である県に問い合わせてきたところ、東日本大震災以降、交通量が増加している。今後の推移を見極めながら事業化の必要性について検討するとの県の回答を得ております。本市としても地域の安全・安心の確保のため、県に対して現状や必要性を訴えながら要望してまいります。

問 全国学力・学習状況調査の結果をどのように評価し今後の課題は。

その他の質問

①ロボットを積極的に地場産業に導入すべし

②一般家庭からのゴミ排出を減量化の取組

③クリーン原町センターの改修は

質問を終えて
交通安全対策も教育に於ける指導者の資質の向上等についても具体的な成果に見えない。

答 四月の自己採点を基に各小中学校に共通する課題を把握、分析し、学習指導改善をする。